

## 一般公開シンポジウム「ヒグマをもっと知ろう！」を開催

### 【概要】

北海道大学総合博物館では、一般社団法人日本哺乳類学会の主催により、北海道を代表する大型野生動物であるヒグマをテーマとした公開シンポジウム「ヒグマをもっと知ろう！ー 森の王者の進化・生態・人との関わり」を後援し、当館を含む北海道大学の教員が講演及び企画運営します。最前線の研究成果に基づき、ヒグマの進化・生態・保全に加え、アイヌ文化との関わりについて、一般市民にも分かりやすく紹介します。

### 【趣旨】

ヒグマと人との共生は北海道において大きな課題です。本シンポジウムでは最新の研究成果をもとに、科学的視点と文化的視点の両面からヒグマについて学び、持続可能な共生のあり方を考えます。また、ヒグマを語るうえで欠かせない北海道の先住民アイヌの伝統舞踊の上演を通してヒグマへの理解と興味を深める機会とします。

**【日 程】** 2025年8月24日（日）13時00分～16時20分（開場：12時30分から）

**【場 所】** 札幌市教育文化会館 大ホール（札幌市中央区北1条西13丁目）  
札幌市営地下鉄東西線「西11丁目」駅、1番出口より徒歩5分

**【主 催】** 一般社団法人 日本哺乳類学会

**【後 援】** 北海道大学総合博物館

**【協 力】** 公益財団法人アイヌ民族文化財団

**【対 象】** 一般市民

**【募集人数】** 600人

**【参加費】** 無料

**【言 語】** 日本語

### 【プログラム】

13時00分～13時05分 開会挨拶・趣旨説明 大館智志（北海道大学）

13時05分～13時20分 アイヌ伝統舞踊（ウポポイ）

13時20分～13時55分 講演「ヒグマの進化とヒトとの出会い」増田隆一（北海道大学）

13時55分～14時30分 講演「ヒグマはどのように草食に進化したのか？生態と生理からの考察」  
坪田敏男（北海道大学）

14時30分～14時40分 休憩

14時40分～15時15分 講演「北海道のヒグマの個体数推定と管理」間野 勉（北海道立総合研究機構）

15時15分～15時50分 講演「カムイ（ヒグマ）とアイヌ（人）との再会はどのような意味を持つか」北原モコットウナシ（北海道大学）

15時50分～16時20分 パネルディスカッション

プログラム・要旨集のダウンロード先：

[https://www.mammalogy.jp/conf/2025/common/doc/2025\\_symposium\\_abstracts.pdf](https://www.mammalogy.jp/conf/2025/common/doc/2025_symposium_abstracts.pdf)

**【参加申込】** 申込不要です（先着 600 名程度）。直接会場へお越しください。



知床半島のヒグマ（坪田敏男撮影）

**お問い合わせ先**

北海道大学総合博物館 館長 坪田敏男（つぼたとしお）

T E L 011-706-2658 F A X 011-706-4029 メール museum@jimuhokudai.ac.jp

U R L <https://www.museum.hokudai.ac.jp/>

北海道大学低温科学研究所 助教（総合博物館 資料部研究員） 大館智志（おおだちさとし）  
（日本哺乳類学会 2025 年度大会 大会長）

T E L 011-706-7474 メール ohd@lowtem.hokudai.ac.jp

**配信元**

北海道大学社会共創部広報課（〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目）

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール jp-press@general.hokudai.ac.jp



日本哺乳類学会 2025 年度公開シンポジウム

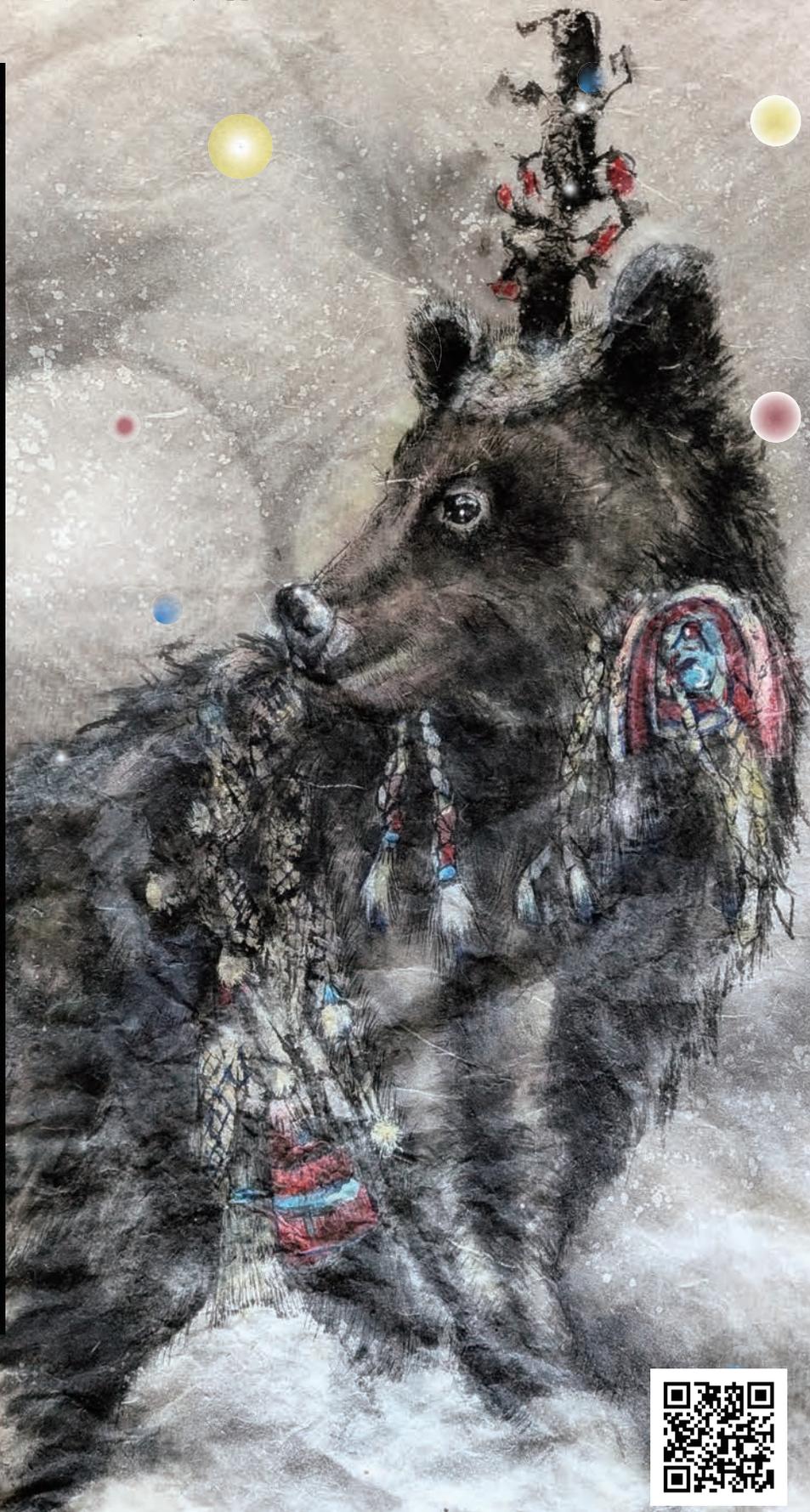
2025 年 **8** 月 **24** 日 (日)

12:30 (開場) 13:00~16:20

札幌市教育文化会館 大ホール 入場無料

森の王者の進化・生態・人との関わり

ヒグマをもっと知る！



主催：日本哺乳類学会

後援：北海道大学総合博物館

協力：アイヌ民族文化財団

お問合せ先：msj-rgu@rakuno.ac.jp



プログラムはここよりダウンロード

# ヒグマをもっと 知ろう！

## アイヌ伝統舞踊



### ウポポイ

アイヌの歴史・文化を学び伝えるナショナルセンターとして、2020年7月に北海道白老町に開設されました。長い歴史と自然の中で培われてきたアイヌ文化をさまざまな角度から伝承・共有するとともに、人々が互いに尊重し共生する社会のシンボルとして、また、国内外、世代を問わず、アイヌの世界観、自然観等を学ぶことができますよう、必要な機能を備えた空間です。ウポポイの主要施設は、先住民アイヌを主題とした国立アイヌ民族博物館、対話や交流を通じてアイヌ文化を体感できる体験型フィールドミュージアム、アイヌ民族による尊厳ある慰霊の実現を図るための慰霊施設が設置されています。

## 演者① 増田隆一



### ヒグマの進化とヒトとの出会い

世界に広く分布するヒグマの動物地理学的歴史に関する研究に取り組んできました。一方、ヒグマの生息地では、長い年月をかけて、ヒトとの精神文化的な共存が築かれており、その歴史をたどることに興味をもちています。

## 演者② 坪田敏男



### ヒグマはどのように草食に進化したのか？ 生態と生理からの考察

1961年大阪生まれ。北海道大学大学院獣医学研究科博士課程を修了。獣医学博士。岐阜大学農学部獣医学科助手、同助教および同教授を経て、2007年4月より現職。専門は野生動物医学／保全医学。とくにクマ類の繁殖と生態に関する研究は40年来の仕事。日本野生動物医学学会会長、日本獣医学会野生動物学分会会長などを歴任。現在は北海道獣医師会野生動物部会長、ヒグマの分会会長などを兼任。主な著書は『日本のクマ-ヒグマとツキノワグマの生物学-』（東大出版会）、『哺乳類の生物学③生理』（東大出版会）など。

## 演者③ 間野 勉



### 北海道のヒグマの個体数推定と管理

1960年東京生まれ。北大ヒグマ研究グループ出身。北海道大学大学院農学研究科博士課程修了。博士（農学）。北海道環境科学研究センター（現北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所）自然環境部でヒグマ個体群のモニタリング体制構築と保護管理の研究を通じ、ヒグマ保護管理計画の基礎作りに携わった。2025年退職。道総研フェロー。IUCN/SSCクマ専門家グループ日本委員、知床世界自然遺産科学委員会ヒグマWG委員、ヒグマの会副会長など。

## 演者④ 北原モコトウナシ



### カムイ（ヒグマ）とアイヌ（人）との再会は どのような意味を持つか

異性愛シスジェンダー男性のアイヌ。埼玉県出身、北海道大学勤務。樺太アイヌの宗教儀礼、祭具などの物質文化、神話などを学ぶ一方で、フェミニズムや障害学などを学び、いわゆる「伝統文化」に内在する抑圧性が形成された歴史にも関心を持つ。近年は差別や偏見の解消などの社会的な問題と、文化研究を結び付けて発信するために試行錯誤をしている。主な著書は『アイヌの祭具 イナウの研究』（北大出版会）、『アイヌモヤモヤ』（303BOOKS）など。

## パネルディスカッション



### コメンテーター：勝島日向子

哺乳類の化学シグナルを介したコミュニケーションを知りたいと思い、さまざまな対象種で研究を展開してきました。ヒグマの調査を9年間経験し、現在はヒグマ同士の「匂いの会話」と、ヒグマのマーキングサイトが他の種（シカ、キツネ、エゾリスなど）に与える影響を調べています。

パネリスト：講演者4名  
司会：押田龍夫